

オプトアウト

研究課題名	重症頭部外傷患者における新型パッチ式脳波計運用プロトコルの効果検討
研究実施機関名および 研究責任者 (所属科、職名等)	さいたま赤十字病院 救急科 医長 朝見 正宏
研究代表施設および 代表研究者	さいたま赤十字病院 救急科 医長 朝見 正宏
研究期間	2024 年 倫理審査委員会承認後 ～ 2025 年 8 月 31 日
研究の目的と意義	頭部外傷におけるてんかん重積発作は、早期治療介入がなされなかった場合の神経学的予後不良因子の一つです。NCSE（非痙攣性てんかん重積）の場合は脳波でしか発見ができませんが、脳波検査は限られたタイミングや時間、マンパワーの中で行っている現状があります。 新型パッチ式脳波計は、装着が簡便であり長時間装着でも侵襲がないため、重度意識障害を呈する重症頭部外傷患者に使用することで、てんかん発作の早期発見・早期治療につながる可能性があります。実際のでんかん発作の有無と MRI（ASL：Arterial Spin Labeling）画像の整合性も評価することで、重症頭部外傷患者の早期てんかん発作に対する急性期脳波測定プロトコルを確立し、その有効性を示すことが目的です。
本研究の対象となる方	2024 年 倫理審査委員会承認後から 2025 年 8 月 31 日の期間で、当院 ICU に入院された GCS $\leq$ 8 の重症頭部外傷の方を対象とします。
提供していただく情報	性別、年齢、既往歴(てんかん、頭蓋内疾患の有無)、診断名、入院時 GCS（GlasgowComaScale）、入院時血中乳酸値、入院時血糖値、入院時血圧、パッチ式脳波計による異常脳波検出の有無、MRI(ASL)での脳血流量上昇の有無、退院時 GCS、治療内容、脳外科手術の有無、使用した抗てんかん薬の種類や投与量
研究内容	前向き観察研究 研究対象者の方に新型パッチ式脳波計を 24 時間 7 日間使用し、てんかん発作の検出の有無と MRI（ASL）画像との整合性を評価します。
個人情報の取り扱い	個々の研究対象者の方の識別には個人情報の要素が含まれない識別コードを用い、個人情報を保護します。研究結果の公表においても、身元を特定できる情報は一切公表しません。
問い合わせ先 (拒否等の受付窓口)	【研究担当者】 所属：さいたま赤十字病院 救急科 医長 氏名： 朝見 正宏 住所：埼玉県さいたま市中央区新都心 1 番地 5 電話：048-852-1111